

なごや生物多様性センター設立5周年

なごや生物多様性センター 設立5周年を迎えて

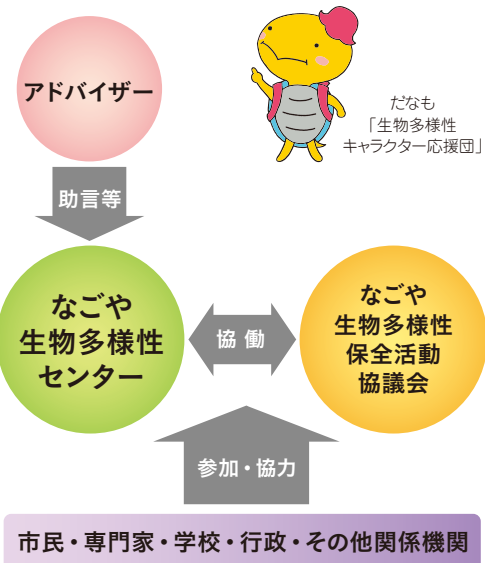
なごや生物多様性センター長
(愛知学泉大学教授)
矢部 隆



なごや生物多様性センターは、2010年10月に愛知・名古屋で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」の開催を契機に活発化した、身近な自然や生きものを守り育てる活動を継続・発展させるため、2011年9月に設立されました。設立から5年、市民・専門家・行政の協働により生物多様性に関する調査・保全活動を数多く行うことができました。その結果、都市部でも貴重な生きものが生息・生育していること、また本来その場所にいるはずのない外来種も生息していることなど、次世代に伝えるべき重要な生きもの情報を得ることができました。

これらの事業を支えていただいているのは、自然環境の保全に熱い思いを持った市民・専門家・企業・活動団体の皆様です。これからもより多くの市民の皆様がなごやの自然に興味を持ち、保全活動に関わっていただけるよう、取り組んでまいります。

運営体制



なごや生物多様性センターのあゆみ

《経 緯》

《主な行事》

平成20年度	名古屋ため池生物多様性保全協議会設立（10月）	緑区竜池 池干しを実施（1月）
平成21年度	「生物多様性2050なごや戦略」策定（3月） 名古屋市版レッドリスト2010公表（3月）	昭和区隼人池 池干しを実施（10月）
平成22年度	生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）開催（10月） レッドデータブックなごや2010～2004年版補遺～発行（10月）	守山区雨池 池干しを実施（11月）
平成23年度	環境省生物多様性保全推進支援事業採択（4月より3年間） なごや生物多様性保全活動協議会設立（5月） 名古屋市アライグマ防除実施計画策定（7月） なごや生物多様性センター設立（9月）	天白区大根池 池干しを実施（11月） 生きもの一斉調査 野鳥編を実施（1月）
平成24年度		なごや生物多様性センター開設記念行事 「なごや生物多様性センターへ行ってみよう!」開催（5月） 生きもの一斉調査 陸貝編を実施（10月） 守山区竜巻池 池干しを実施（11月）
平成25年度	機関誌「なごやの生物多様性」創刊（2月）	生きもの一斉調査 オオキンケイギク編を実施（6月） なごや生物多様性サマースクール開催（7月） 第1回生物多様性カフェ開催（8月） 千種区茶屋ヶ坂池 池干しを実施（11月）
平成26年度	名古屋市版レッドリスト2015公表（3月）	第1回なごや生物多様性センターまつり開催（5月） 生きもの一斉調査 アメリカザリガニ編を実施（7月） 中村区太閤池 池干しを支援（10月）
平成27年度	レッドデータブックなごや2015公表（4月）	生きもの一斉調査 カマキリ編を実施（10月） 南区菅池 池干しを支援（10月） 第2回なごや生物多様性センターまつり・生物多様性ユースひろば開催（11月） 緑区東ノ池 池干しを支援（11月）
平成28年度		生きもの一斉調査 セミの抜け殻編を実施（8月）

(なごや生物多様性保全活動協議会等主催事業を含む。)

活動紹介

名古屋南高等学校 生物・化学部

南区東又兵衛町
五丁目1番11

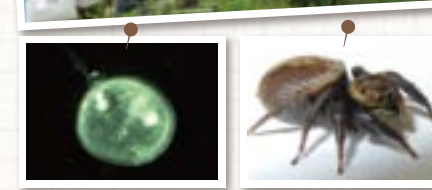
名古屋南高等学校の生物・化学部には24名の生徒が所属しています。その活動は毎週月～金曜で、生徒一人ひとりが生物、化学、物理、天文など、自然科学について興味のあることをテーマに取り組んでいます。

スウェーデンの研究者ホルムが発表した論文を参考に、クモ卵を用いた研究をメインに活動を始めたのが7年前のこと。昨年には、クモ糸に含まれるアミノ酸を分析することで、液晶と関連していることを知りました。

そして、今年は「液晶」についてさらに掘り下げた研究を進めるため、装置を制作中です。また、クモを通して知り合った名古屋市立大学大学院・システム自然科学研究科の片山准教授に、液晶についての講演も行っていただきました。さらに、『中高生の科学研究実践活動推進プログラム』への参加も、今年度で2年目となりました。

野外活動では、実験に使うクモを捕る必要から、中部蜘蛛懇談会の採集・観察会に参加。学校周辺でのクモ採集に活用しています。

こうした活動の成果は、「生物多様性ユースひろば」や愛知高文連、日本進化学会などで発表しています。文化祭では、フナ解剖やロケット教室を行うなど、活動範囲の拡大に結びついています。



クモの研究では、卵に針を刺す繊細な作業も。



講演の様子

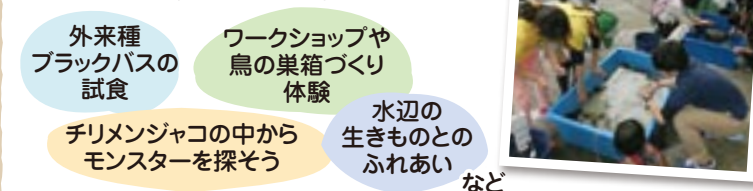
掲示板

なごや生物多様性センターまつり・ 生物多様性ユースひろば

平成28年
日時 10月30日(日) 10:00～15:00
会場 なごや生物多様性センター

なごや生物多様性センターまつり

今年でセンターまつりも3回目!ブース出展からパネル展示、生きもの展示など、自然や生きものについて、子どもから大人までみんなが楽しみながら学べます。



生物多様性ユースひろば

高校の生物部等の学生達が集まり、日頃の活動を発表します。ステージでの発表もあります。



「市民生きもの調査員」に登録しませんか?

生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。どなたでも登録できます。詳しくは協議会ウェブサイト!

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住 所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地
(地下鉄塩釜口駅2番または3番出口から徒歩5分)

電 話 052-831-8104(平日 8:45～17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生物多様性センターウェブサイト
http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity

名古屋市公式ウェブサイト
http://www.city.nagoya.jp/

なごや生物多様性保全活動協議会 http://www.bdnagoya.jp

生きものシンフォニーのバックナンバーは、なごや生物多様性センターのウェブサイトでご覧いただけます。



こちらから
アクセスできます



なごや生物多様性 サマースクール2016

特集

専門家と一緒に、観察や体験などを通して
さまざまな生きものたちとふれあった夏休み。
全14講座が開催されました。

7月9日(土) 蝶の採集と標本づくり (講師：名古屋昆虫同好会)	7月9日(土) 甲虫の採集と標本づくり (講師：名古屋昆虫同好会)	7月21日(木) 見てみよう! 田んぼの生きもの・川の生きもの (講師：NPO法人日進野菜塾)	7月22日(金) 池のプランクトンの世界 (講師：環境科学調査センター・ 滋賀県琵琶湖環境科学センター)
7月23日(土) クモのふしぎ発見! (講師：中部蜘蛛懇談会)	7月24日(日) 昆虫生息調査 (講師：荒地ふるさとクラブ)	7月25日(月) 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう! (講師：相生山緑地オアシスの森くらぶ)	7月26日(火) さいとながれ すいせい 才井戸流の水棲生物 ～プランリアを探せ!～ (講師：環境科学調査センター)
7月27日(水) カメのすむ身近な水辺を 観察しよう (講師：日本カメ自然誌研究会)	8月2日(火) 外国からつれてきた虫って… どんなの? (講師：なごや外来種を考える会)	8月5日(金) 大矢川源流域の 生きもの調べ (講師：愛知守山自然の会)	8月6日(土) チリメンモンスターを探せ! (講師：「あいちの海」グリーンマップ)
8月5日(金) 東山の森の落ち葉と 土の中の生きものたち (講師：なごや東山の森づくりの会)	8月9日(火) 田んぼに育つ生きものたちの世界 (講師：NPO法人日進野菜塾)		

CONTENTS

特集 なごや生物多様性サマースクール2016 P1～3

TOPICS ツクサのそっくりさん? P3～4

新たに特定外来生物が指定されました P4

なごや生物多様性センター設立5周年 P5

活動紹介 名古屋南高等学校 生物・化学部 P6

掲 示 板 なごや生物多様性センターまつり・生物多様性ユースひろば P6

生きものとふれ合う夏休み

なごや生物多様性サマースクール2016

「なごや生物多様性保全活動協議会」では、子どもたちが身近な自然と触れ合い、生きものの不思議を学べる14講座を開催しました。昆虫採集や、生きものが棲む環境の調査などに、子どもたちは興味しんしん！今回はそのなかからピックアップした2講座の様子をご紹介します。

山へ！川へ！
さあ出発！

7月23日(土)

クモのふしぎ発見！

講師 中部蜘蛛懇談会 場所 八事山興正寺



名古屋市内で約330種、愛知県内では約560種いるとされているクモ。どんなところに潜んで、どんな特徴があるのか、クモの不思議を探るため、今回は八事山でクモの採集と巣の観察を行いました。

当日、子どもたちは調査する前から、待ちきれない様子で近くの木や草の中を観察。さっそくクモを発見して喜んでいました。いよいよ八事山へ入ると、補虫網を片手で枝の下にあて、もう片方の手に持った棒でたたいて採集する『ピーディング』や、補虫網を草の中で何回か振って採集する『スウィーピング』などを開始。つかまえたクモをどんどん小型のビンへ入れていきました。

採集していくと、ドーム状の巣をつくるクモや葉を巻いて家をつくるクモ、土の中にいるクモなど、さまざまなタイプのクモを発見。最初は「これは何クモ?」と聞いていた子どもたちも、終盤になるとただでクモの種類や、



オスカメスカが分かるまでになりました。その後は、顕微鏡やルーペを使って、つかまえたクモを熱心に観察。なかには、「このクモ飼ってもいいですか?」と質問する子の姿もありました。

参加した子どもたちは、「いろんなクモを探せて楽しかった」と満面の笑みで語っていました。



キシノウエタテグモの住まいは土の中。小さな扉付き！

7月27日(水)

カメのすむ身近な水辺を観察しよう！

講師 日本カメ自然誌研究会
場所 植田川／なごや生物多様性センター



カメが元気に生活している水辺は、おだやかで自然環境が良好です。でも、その水辺も自然環境の変化によっておびやかされています。今回は、植田川でカメや

水辺の生きものを捕まえ、そこから植田川がどんな環境なのかを調査しました。

前日の雨もあって、カメの罠は当日の朝に仕掛けることに。そのため午前中は、カメたちの棲む水辺について勉強しました。カメの目線から見る水辺は、危険がいっぱい。水辺の自然が壊され、いまカメがピンチだという話を聞きながら、真剣にメモをとる姿が見られました。



午後になると、さっそく川に入った子どもたちは、草むらをねらい、潜んでいる生きものをタモ網に追い込む『ガサガサ』を一齐に開始。すると、いろいろな生きものが次々と捕まり、子どもたちは大喜び。1人で2匹のカメを捕らえた子どももいました。もちろん、午前中に

TOPICS

ツユクサのそっくりさん？

初夏から夏にかけて、路傍や林縁の至る所できれいな青い花を咲かせる日本人に馴染みの深い植物に「ツユクサ」があります。身近なところで、この植物を見たことがある方も多いのではないのでしょうか。

ツユクサは、ツユクサ目ツユクサ科ツユクサ属の植物で、日本の在来種とされています。古来、日本人にとって身近な植物で、日本最古の歌集である万葉集にもツユクサを扱った歌があります。



ツユクサ

つきくさ
月草の、うつろひやすく思へかも、
我が思ふ人の、言も告げ来ぬ

月草の色のように移り気でしか思っていないからでしょうか。私の恋する人はことばもかけてくだらないことよ。

ももち
百に千に、人は言ふとも、月草の、
うつろふ心、我れ持ためやも

あれこれと人はうわさしようとも、月草のように移ろう気持など、どうして私は持ちましようか。

月草（つきくさ）＝ツユクサのこと。

仕掛けた罠でもカメを捕獲。センターへ持ち帰り、仕分けと観察を行いました。

調査の結果、ミシシippアカミミガメやウンガエルのオタマジャクシなど、外来種が4種もいました。人間により放され、そこで繁殖した可能性もあるということが分かり、子どもたちは、捕れた生きものを興味深げに観察していました。



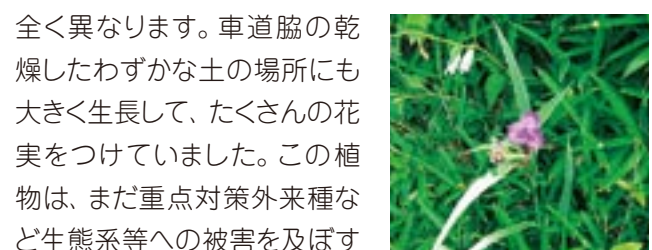
このように、人の心の移ろい易さを、ツユクサで染めた着物の色の移ろい易さに見立てています。

ところが昨年、このツユクサに姿かたちがそっくりの外来種が増加しています。同じツユクサ科の「ノハカタカラクサ（別名：トキワツユクサ）」です。

先日、名古屋市内の某町で、園芸が好きで植物に詳しい住民の方と話をしていたときに、この植物を在来のツユクサと間違えていることに気づきました。それも無理はありません。ツユクサと姿かたちだけでなく生育場所も似た傾向があるからです。しかし、花を見て頂くとわかる通り、色は全く異なり、ツユクサが青色なのに対して、ノハカタカラクサは白色です。花の構造も異なります。また、常緑の多年草であることから、冬に葉が見られれば一目瞭然です。このような違いがあるにしても、全体の姿かたちや生育場所が似ていると、植物に詳しい方でも、同じ植物と認識してしまうのだとつくづくと感じました。

もう一種、同じツユクサ科の植物で、この初夏に名古屋市郊外でよく逸出を見かけた外来種が「ムラサキツユクサ」です。こちらは、在来のツユクサとは姿かたちが

ノハカタカラクサ



ムラサキツユクサ

全く異なります。車道脇の乾燥したわずかな土の場所にも大きく生長して、たくさんの花実をつけていました。この植物は、まだ重点対策外来種など生態系等への被害を及ぼすおそれがある種として指定は

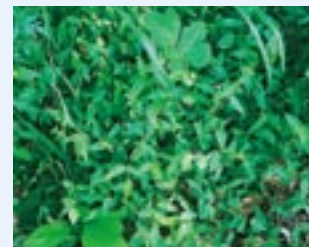
されていませんが、昨今の逸出の状況からは、繁殖力の強さを感じます。
ノハカタカラクサもムラサキツユクサも、観賞用に輸入された園芸品であることから、葉も花も美しい植物です。また、その繁殖力の強さとは裏腹に、在来のツユクサと同様に花は一日でしぼむという可憐な一面も持っています。しかし、こうした園芸品としての魅力に目を奪われてばかりはいられません。特に、ノハカタカラクサの様に在来種と姿かたちがそっくりで侵略性が高い外来種は、在来種と入れ替わっていても違和感が少ないため、いつの間にか在来種に代わって生活文化に定着してしまいかねません。そうしたときには、在来種の方は駆逐され、地域の生態系が損なわれるだけでなく、万葉集でも歌われてきた様な、古来の文化も体感が出来なくなるとおそれがあります。取扱いには、十分に注意をしていきたいものです。

植物の特徴

ツユクサ（*Commelina communis*）（露草）（ツユクサ科、ツユクサ属）
1年草。花期6～10月。草丈30～50cm。畑や田の畔、空き地、道ばたなどに普通に生育。茎の下部は地をはってよく枝別れて、節から根をだしてふえる。上部は斜めにたちよく繁る。ツユクサの名は、夏の朝露を受けて咲く様子からと言われるが、この葉につく水分は、余分な水分を水孔という器官から排出したもの。古名はソキクサ（月草、着草）で、花の汁をこすりつけて布を染めたことから。ツユクサの花の色素は水につけると溶ける性質があるため、ツユクサで染めた着物の色は、水で色が変わりやすい。また、青い花は、朝咲いて、その日の夕方にはしぼむ。こうした染め色や花のはかなさ、うつろい易さを心変わりなどに例え、古来歌に詠まれることが多い。



ツユクサの花

ツユクサの群落
(クズ、ススキ、ヨモギが交っている)

ノハカタカラクサ（*Tradescantia flumiensis*）（野博多唐草）
別名：トキワツユクサ（常盤露草）（ツユクサ科、ムラサキツユクサ属）、南アメリカ原産、（重点対策外来種（生態系被害防止外来種リスト）、条例公表種（愛知県条例：自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例））

常緑の多年草。花期5～7月。葉が常緑のため、常盤ツユクサの別名がある。昭和初期に観賞用として導入され、現在も斑入りの葉や花の観賞用のために複数の園芸品が流通している。林縁、人家の周り、道ばたなどに生育。やや湿った日陰に一面に生育するため、林床や林縁、水辺に生育する在来種と競合し駆逐するおそれ大きい。近年も急速に分布を拡大している。欧州、米国、豪州では、在来の低木、木本を駆逐している。侵入の初期に手作業で根から除去しておくことが有効。



ノハカタカラクサの花

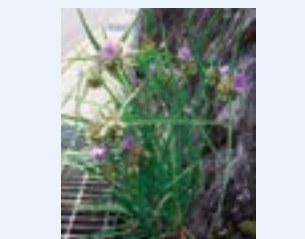


ノハカタカラクサの群落

ムラサキツユクサ（*Tradescantia ohienensis*）（紫露草）（ツユクサ科、ムラサキツユクサ属）、北アメリカ原産
常緑の多年草。花期6～9月。草丈は1m程にもなる。庭に植えられたものが野生化している。ムラサキツユクサは改良品の園芸品がたくさんある。路傍の乾燥地にも生育していることから、上記2種よりも乾燥地に強い様である。一株にたくさんの花実をつけ、こぼれ種からも生長してくるため、名古屋市内でも逸出が目立つようになってきた。



ムラサキツユクサの花



車道脇に咲くムラサキツユクサ

【参考文献】
環境省「外来生物法、生態系被害防止外来種リスト」、
<http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/list.html>
愛知県(2012):
●STOP!移入種 守ろう!あいちの生態系～愛知県移入種対策ハンドブック
●附属資料編ブルーデータブックあいち2012
鷲谷いつみ(監修)、日本生態学会(編集)、村上興正(2002):「外来種ハンドブック」、地人書館／自然環境研究センター(著)、多紀 保彦(監修)(2008):「日本の外来生物一決定版」、平凡社／中西進編(1978 - 1983):「万葉集 全訳注原文付(一)～(四)」講談社

(生物多様性専門員 長谷川泰洋)

新たに特定外来生物が指定されました

平成28年8月15日に、ハナガメなど24種類が新たに特定外来生物に指定されました。平成28年10月1日より、飼養、栽培、保管、運搬、放出、輸入等の規制が開始されます。これらの特定外来生物の飼養・栽培をしている方は、規制開始後6ヶ月以内に飼養等許可申請が必要になります。詳しくは環境省のウェブサイトをご確認ください。
<http://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/kentou.html>